

急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな差があるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No.651

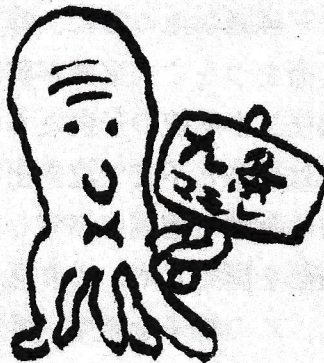
2023年5月 **別**

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 三陸復興の今 2
- 原子力安全規制の空洞化と 4
- お便りから 6
- 久しぶりの式根島 11
- " 式根島と新島 19
- 山仕事(4月「お茶つみパーティ」) 20
- け・い・じ・ばん 26

泉ゆきをさんが
大切にしてきた
憲法が.....



月 日 現在の
会員数 名

この見本誌をみて新たに
「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を
郵便局で 00100-2-20630
「雑報友の会」
へ 申し込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は 年に一度の 94円。

久しぶりの式根島

「猫の手」仲間7人(鈴木正士、伊藤康江、久米真弓、原田英治、山崎彰彦、若林展行さんとぼく)での式根島行きとなった。

出発前にいろいろなことがあった。東京都の旅行支援、「島ぽ」(旧助成)に山ちゃん
と英ちゃんがスマートフォンを確保してくれた。ところが、出発直前になって島で宿泊する
民宿「大沼」では、島ぽを扱わず現金のみということがわかった。山ちゃんが東京都と
かけ合ってくれたが、払い戻しはできないとのこと。宿泊に充てる分はタダになったが、土
産物などに使う分は生きている。それを最大限活用するため、山ちゃんが知恵を絞って
くれた。

3月27日(月)、うすぐしり。午前中テニス、午後畑。軽く夕食を済ませ20時に竹
芝桟橋へ。内田美智子さんから頂いた優待券
で7人分の乗船券を購入し、皆さんを待つ。

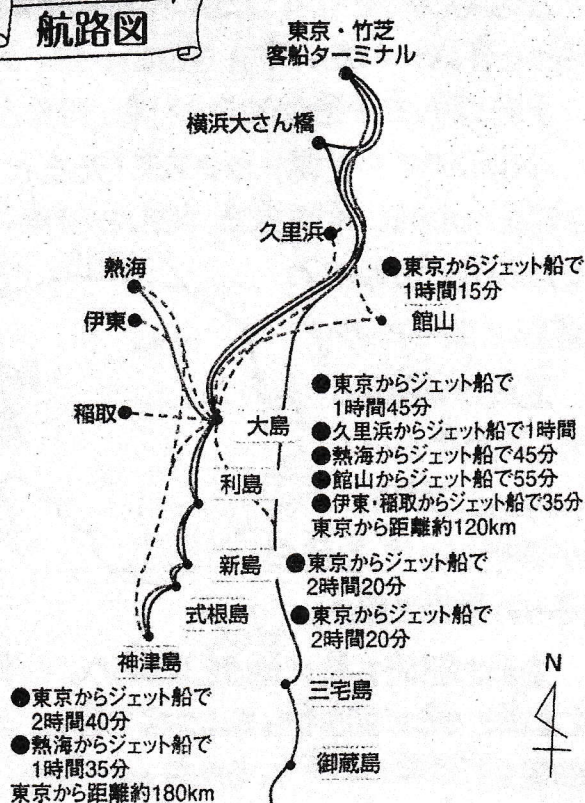
ぼくと同じ頃に到着していた山ちゃんが乗船
券を査検して、計算がまちがっているという。
ぼくは何気なく受けとったのに。

券は、行きが竹芝～式根間特2が4枚。
帰りは4人が式根～竹芝間2等和室で4枚。
大島から高速船にのり替之熱海に向かう3人
が、式根～大島間2等、大島～熱海間がジ
ェットfoilで各3枚の計17枚。

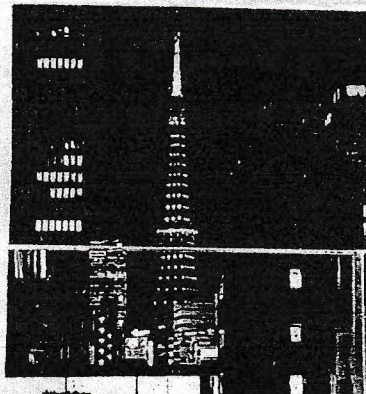
山ちゃんはそれを一々査検して、大島～
熱海間の高速船分が割引はかれていないこ
とをみつけてくれた。早速窓口で払い戻し
を受ける。これで6千円ほど戻すことが
できた。内田さん、山ちゃん、ありがとう。

康江、若林、英ちゃんに続き、掛川から新幹線で正士、久米さんが到着し、22時出航。

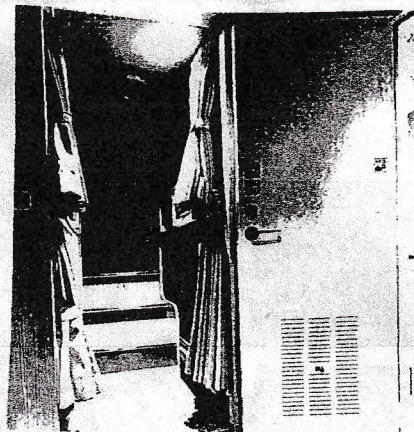
航路図



△甲板で



カメラ: 正士さん



特2の2段ベッド(1室4人)

小雨が降る中、屋根のある甲板(さるび丸は船倉に近い/甲板から甲板まであり、甲板は煙突まわりで屋根がなく、狭い)で夜景を見ながら酒盛り。

23時近く、4甲板の2段ベッドに納まる。

3月28日(水)、曇りのち晴。予報よりも天候が悪くなっている。波はさほどでもないが、風がある。「式根島は堤防の状況で接岸できない場合があります」と放送が。従来、一番荒れに弱かった利島(としま)が問題ないのに、なぜ? 波が高くなくても風が強いと、接岸時に船が岸壁に激突する恐れがあるのだろう。

もし、下り便で接岸できない時は、隣りの神津島(こうづしま。前日正代^{まさしろ}さんがお住まいだ)で折り返し、上り便になった時に上陸できることもある。(ばくも二度経験)しかし、これもダメだと竹芝まで強制送還となってしまう。

山ちゃんが池田清江さんに連絡をとってくれた。清江さんにも心配して港まで出て待つと言ってくれた。幸い、式根の手前新島に入港する頃、寄港可となり守備。

9時15分、無事野伏(のぶし)入港。池田ご夫妻と大沼ご夫妻が出迎えてくれた。

今回初めてお世話になる民宿「大沼」(04992-7-0423)。

3部屋に分かれて荷を置き、池田さんの車(7人乗り)

をお借りし、山ちゃんの運転で出発アーツ!

島内に4店ある食の販売店の一つ、ゆかちんご用達の「みやとら」で、各自お好みの弁当を購入。

まずは潮時を見て地鉈温泉へ。文字通り、鉈で断ち割ったようなV字の断崖を130段ほど下り、その底から湧き出した熱湯が波と交わり、頃合いとなった

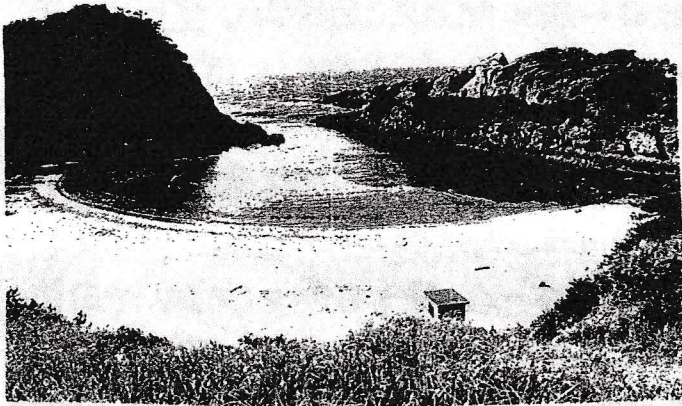


湯壺を採らねば、野趣に富んだ温泉だ。



ここには、脱衣所もシャワーもない。トイレははるか崖の上だ。湯から上がるヒキ着のまま階段を上がり、300mほど離れた「いこいの家」で溯を著す。(200円)

近くの「雅湯(みやがゆ)」に移り、足湯(冷たかった)で日射しを浴びながら昼食。(図の右上)
食後、夢のような景色の泊(とまり)港へ。
ここは江戸時代、風待ち港として使われたという。



次の大浦湾に行く途中、運動公園を
覗く。溝口スズキとテニスをした時は2

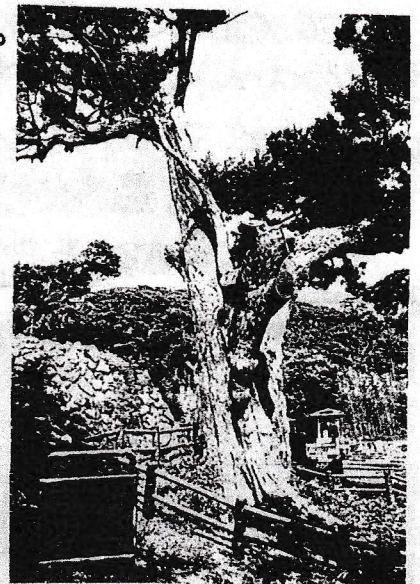
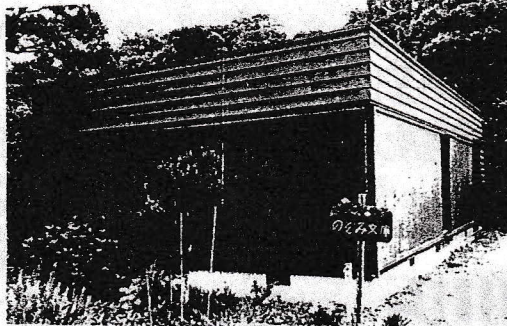
面あったコート(ハード)は、1面になっていた。芝崎教授、いつかここでやるよ。

大浦湾(泊から反時計まわり、図の上部中ほど)は、かつて英ちゃんも出場したアクアスロン(スイム1.5km、ラン10km)のスタート・ゴールとなつたところ。30年前、ゆからさんに誘われて20回くらい参加したろうか。

さらに左へ移動し「神引(のくびき)」展望台へ。式根島は伊豆七島(本当は新島の^{にい}属島で、七島には算されない)の中で唯一山が無く、最高地奥が99mの平坦な島。その中で神引は一番見晴らしがよく、北を向くと新島、利島、大島に伊豆半島の奥に富士山(この日は見えず)が、ふり返ると神津、三宅、御蔵(みくら)山が望まれる景勝の地だ。

宿の上の東馬場でイヌマキの巨樹を見た後、「のぞみ文庫」へ。

内田さんからお借りした
鎌で、久しぶりに中に入る。
廊下の書棚に絵本が
並び、生前は公開して
いた。中には、泉ゆき
さんの『心はいつも
山頭火』も納められて
いる。



室内には望さんの
絵巻が置かれている。
それを見て、生前、望さん
と一緒したときの



イヌマキの巨樹
3年前?の台風で
大枝が折られた。

ことが思い出された。初めて出会ったのは、アクアスロンに参加したときに誰も居ない早朝の地鉈温泉の早朝、小さな湯っぱだった。その後、アクアスロンを応援してもらったり、望さんの友人やお姉さんと一緒に石臼川海岸で玉石を集めて井上土産店の軽トラックで運び上げ、のぞみ文章の犬走り(軒下)に敷き並べたりした。中でも、お父さんが待つ大島でジェット船にのり替えるまでの間、甲板で潮風に吹かれながら讚美歌をうたったことが印象深い。ぼくはほとんどロバクだったが。

ぼくは女性が大好きだけれど、望さんには一指も触れたことがない。望さんは天使だった。今は、大好きなイエスの下で美しい時を過していることだろう。ぼくは天国に縁が無いけれど。

島で一番大きな「おくやま」で酒類などを買い込み、宿へ。ここでは酒類の持ち込みが自由で、玄関に冷蔵庫が置かれている。宿はコップの用意だけのさっぱりサービスだ。

この宿の奥さん(日内儀)は、池田清江さんのお姉さん。館主も漁をしており、池田誠さん(池松丸の船長)とも仲が良く、お二人で厨房の手伝いに来てくれた。夕食は、4人が腕をふるったご馳走が並ぶ。そのメニューは、

ズメさん狩望のイセエビ、船長が前日に釣ったヒラマサの刺し身、同煮、たたき揚げ(トビウオなどのすり身をさつま揚げのようにしたもの)、イカ・里芋・人参の煮物、イカのサラダ。野菜の多くは自家生産だ。



大沼、池田の両ご夫妻と一緒に賑やかな夕食となった。

大沼、池田さんとも島の消防団長を務め、大沼さんは海区の調整委員を務め、漁協で今はパートとして勤務中。池田船長は、式根島が舞台となった映画「男はつらいよ」の中で、マドンナ栗原小巻の乗った車のドライバーを演じたそうだ。知らなんだ。

食後も歓談。温暖化や黒潮の流れの変化で変わる海況の話も出たが、30日夜に帰宅すると届いていた神津島の前田さんのお便りにも「海流の異変は、まだ元

に戻らないようです。桧橋で釣れるムロアジなども戻っていないようです」とあった。

さらに、式根島を愛した石原横太郎、小林旭、加山雄三などの話題も。しまいには英ちゃんのカナや合唄もどき出し、21:40まで楽しい宴が続いた。

← 民宿の玄関で。



3月29日(水)、晴。海も穏かになり、11:25発上りのさるび丸で目と鼻の先の新島へ。わずか15分、310円。もとは西島は一つの島だったが、地震で間が陥没し別れてしまったそうだ。水源のない式根へ、今も新島から海底パイプラインで水が送られている。

新島へ行った後何をするか、前日議論となった。はじめにレンタサイクルで島巡りの案が出たが、康江さんが自転車にのれないからダメという。次に、自転車の代わりにスクーターを借りて女性二人を後ろにのせて走る案が出た。125CCのスクーターにのれる免許証を持つのは正士、山ちゃんにぼくの三名。正士さんは体調を考へて遠慮してもらうことになり、山ちゃんとぼくの後ろに誰がのるかとなった。すると、康江さんが「厚正さんは乱暴だから」と敬遠された。そこでぼくが、オードリー・スミスさんにのせてローマの街ならぬ新島の村内をささうと走り廻ることになった、と思いきやなぜかこの案もご破算となった。残念。

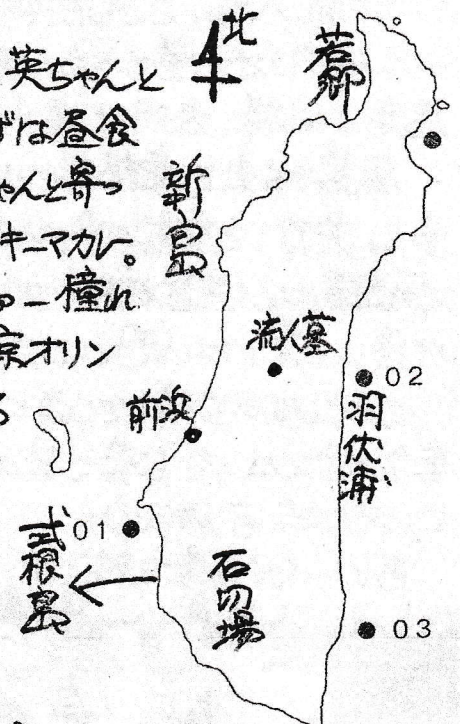
結局、車2台を借りることになり、大沼さんが格安の値段で知り合いのレンタカー屋さんを紹介してくれた。

船が新島に着くとレンタカーの店の車が待っていて、英ちゃんと山ちゃんをのせて店へ。戻ってきた2台に分乗してまずは昼食の場所探し。閉まっている店が多く、結局、2年前? 山ちゃんと寄った弁当屋さんで各自、好みの弁当選び。ぼくは前回と同じキーマカレー。それを持って島の東側、白い砂浜が6.5km続くサーファー憧れの羽伏浦へ行き、海を眺めながら昼食。ここは、東京オリンピックのサーフィン会場を千葉の一宮海岸と争ったところだ。その一宮海岸では、4月に入って30頭ほどのイルカが砂浜に打ち上げられ、サーファーが協力して海へ戻すという出来事があった。昔、ぼくが渚マラソンに参加して走っている時、同じ場所に小型のクジラが座礁しているのを見たことがある。

昼食後、島の北端若郷集落へ。65年前、防衛庁のミサイル試射場建設反対で来たことがある。当時はカタガタの山道を軽トラックの荷台に揺られて行ったが、立派なトンネルが通じていた。

港まで行ったが、別段何があるわけでもなく、とて返して流人墓へ。門前を掃いていた男が気色ばんで「マスクをしてない」とか「今朝、近くで亡くなった人が出たので、寺には入らないでくれ」という。

近くの駐車場に車を止め、墓地へ。



島人の墓より一段低いところに、みっさり粗末な墓石がポツンポツンと立っている。新島には1300人余りが流され、その半数近くがこの地に眠っているといふ。

式根に帰る連絡船(村営の「にしき」が修理中のため、漁船が代替)の最終便が16:20。その前、15時にはレンタカーを返す約束になっている。あまり時間がない。

最後に、島の南部の山中にある抗火石(ゴ-ガセキ)の採掘場を目指す。抗火石は、世界中でもイタリアの某所とここでの産出しない火山性の石。ガラス成分が主体で多孔質。火に強く水に浮く軽さで、島内では家屋や塀などに多用されている。東京の遊谷駅前にあるモアイ像もこの産だ。



しかし、採掘現場は思ったより遠く、車の返却時刻が迫る。途中

で引き返し、港近くの湯の次露天風呂へ。こ

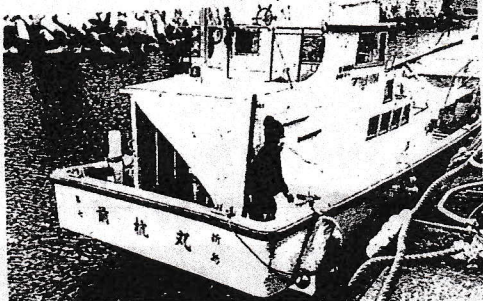
で5名を降ろし、英ちゃんと山ちゃんは車を返しに行く。

その間、入浴。ここも無料(温水シャワーは100円)で水着で入る。式根島の足付温泉と同様、透明な塩水系だ。

風呂から出て連絡船のり場まで15分歩く。先行して乗船の申し込みをすると、12人の定員に4人先客があり、ぼくたち5人で9人。残り3人だ。英ちゃん山ちゃんの帰りが遅いと乗れない恐れがある。

心配しながら待っていると、大きな荷物をさげて歩いてくる二人の姿が。今朝、店主が亡くなったお店で皆のお土産用に金目鯛の干物、くさやなどを購入していたのだ。ありがとう。

あと一人分の席を残して、「にしき」の代わりに漁船が出航。無料だった。



本来通船である船を使っているため、ちゃんとした席はない。テント布で囲った船尾で長い板のベンチに座っていると、奥の方からぼくの名を呼ぶ人がいる。マスクでよくわからないが、「のぞみ文庫」の土地を持っていた井上土産店の奥さんだ。その店で買物をすると、1割引きしてくれたわけ。連れんがいなくなり、いまは一人で店をやっているはず。そばに寄って挨拶をする。



10分ほどで野伏港到着。とめてあった車で「石くやま」に行きビールなどを買い、宿に戻る。夕食は、金目鯛の煮付け、メジナのぬた、ビン

長ハラスの焼物、焼きサバ、サバの立田揚げ(上にかけてあんの人参は清江さんの栽培)、トコブシ、コロケにサラダとこの日も大ごちそう。食べ切れない人が続出。容器をもらてあとにとっておくことにした。



3月20日(木)、くもりのち晴。
朝食前、一人で下の温泉へ。最初に足竹温泉。湯つぼが増えているが、どれもぬるい。引き返し菰の湯へ。これは地熱温泉から汲み上げた湯を引いており、泉質が同じだ。すぐそばまで車で行け。脱衣所とシャワーがあるので、島民の高齢化もあってこちらに来る人が多い。

先客が一人居た。15~16年前までアクアスロンに参加していたという。ほくと重なることもあったろう。いま、島は人が減るばかり。観光客誘致のため河津桜を植えるよう提案しているが、行政は動かないという。

朝食後、村営のタイ養殖場へ。大沼さんが門の鍵をあげ、見学させてくれた。養殖池は二つに分かれ、海水が出入りできるようにしており、イセエビや他の魚が入ってくることもあるそうだ。大沼さんが餌やりをして見せてくれた。何人か、バケツから柄杓で餌まきをさせてもらう。すると20~30尾のマダイが昇ってくる。糺は伊豆から購入。ほどよく育ったところで、注文に応じて出荷する。価格は/kg当たり1,000円。注文は電話かFAXで下記へ。

〒100-0511 東京都新島村式根島 791 番地

TEL : 04992-7-0406 ・ Fax : 04992-7-0407

Mail : suisan@center.email.ne.jp 休業日 : 毎週火・水、年末年始

くわしくは で検索または右のQRコードからサイトへ!



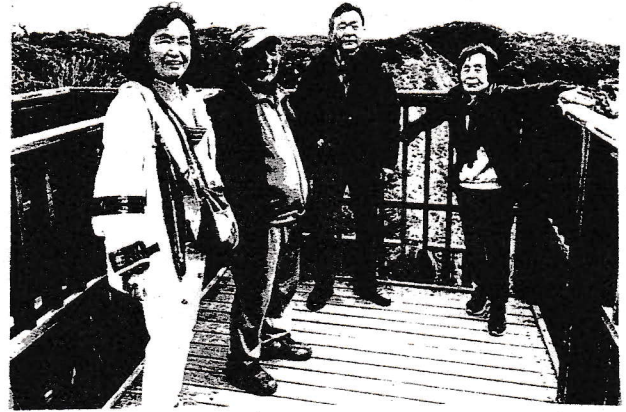
式根鯛平君



どんなところへ。上の道路を4人の若者が自転車で通りかかった。若林さんが声をかけ、大沼さんの許しを得て招き入れる。若者も餌やりをして喜んでいました。

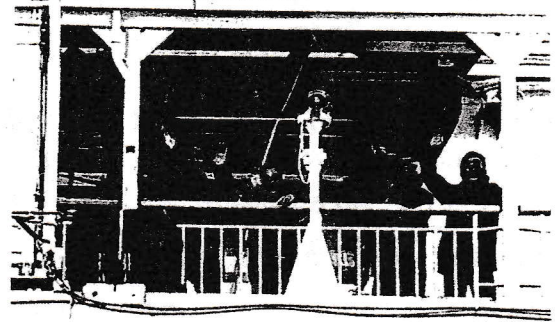
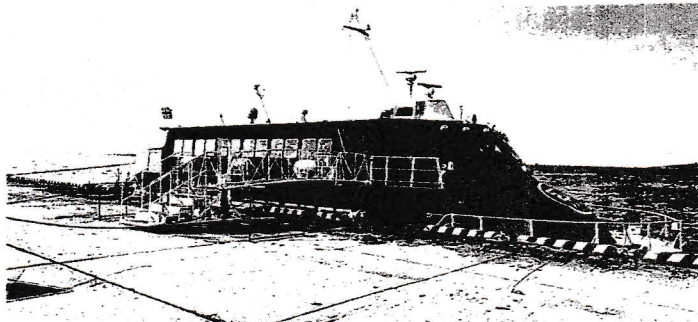
11:25の出港まで少し時間がある。さいごは、遊歩道^{みかゆ}を10分ほど歩き御釜湾の展望台へ。

港に戻ると11時ちょうど。大沼池田両ご夫妻が見送りに来てくれた。握手をして別れを告げる。船上と埠頭と、互いに見えなくなるまで手を振って別れを惜しむ。また行きますよ。



甲板に居を占め、一杯のみなで昼食。風の当たらない舞台に移り、遠くは島影を見ながらゆったり過ごす。ぼくはこのときが好きだ。

大島で熱海行き的高速船(下)にのり替える正土、康江、久米さんが下船。船上から手を振って見送る。遂に、随任する先生を見送りに、児童と親が埠頭で手を振っている。



2等和室に戻ると、20人分ほどの部屋にぼく5人、他は外国人が一人だけ。若林さんが「エキスキューズミー」と話しかけ、何やら自分ほどやりとりしている。先ほど、子どもたちに見送られた先生だった。ピザを更新し、どこぞで教員を目指すそうだ。

19時竹芝港到着。浜松町でお別れ。山ちゃん、お世話になりました。405円箱入。

〜 池田 清江さんからお便り 〜

式根島の春を皆様楽しんでいただろうと思っていたのに寒くてびっくりしたと思います。皆様にご挨拶が出来て私は元気、うれしかったです。

沢山のお土産もありがとうございました。お体に気を付けて下さいね。

(次頁以下、康江さんの文が)

何時もはほぼ歩きなのに、今回は車での移動でした、これも参加者の高齢化の影響かどうか。めまぐるしく変わる渋谷や新宿の街の様相に困惑している昨今ですが、式根島、新島も又しかりです。

まず、往きの客船サルビア丸は2等でも大部屋ではなく、一部屋4人、各人寝台でした。宿泊した民宿が池松さんから、大沼さんになりました。地鉾温泉は途中の通路がきれいに整備されていました（何しろ夏ではない3月、湯から出ると冷たい風が吹き寒いなのって）。庭の草刈りをしたことがある“のぞみ文庫“に入らせて頂きました。雨戸の締まった建物はなんだか寂しいものです。それでも庭のスイセンの花は綺麗に咲いていました。気になっていたミサイル発射試験場

前に行った時は海岸周辺と教会だけでしたが、海岸には津波避難タワーが立っています。車でぐるぐる回っている内に、密かに頭がありながら口にはしなかったミサイル試験所を通ることができました。平屋建てで、周りは緑もなく「こんなところがミサイルの試験所？」という感じです。

浜の湯露天風呂で、中高年と思われる男性に聞いてみました。「ミサイル試験所はいつできたの、どんな試験をしているのですか」と。「そうだなあ30年以上前かな、年一回、10月に飛ばしているよ」と。地元の人とは言えそんなものでしょう。

雑報で厚正さんが建設反対運動に参加したと書かれていたのを読みました。大学生だったとか、ネットでみると1959年（昭和34年）から計画が始まり、1962年完成（昭和37年）とあります。それは私が高校を卒業した年、確かに厚正さんは大学生だ！妙に納得しました。新島村のホームページの「議会だより」には、2022年1月に100歳を迎えられた当時の村長さんの100歳インタビューに、建設に村民の多くが反対するなど賛否に分かれたとあります。

自衛隊の唯一の国内ミサイル試射場なのに報道もされず、みんな知りませんよね、ミサイル発射試験は北朝鮮だけではないのです。

島のあちこちにモヤイ像を見ました。渋谷駅のモヤイ像は新島から送られたのだそうです、そういわれれば書いてあるのを見たような気がします。すっかり忘れていました。

初めての漁船

式根島から新島へ連絡船「にしき」が修理中とかで、帰りは漁船に乗りました。連絡船とは違いスロープがない、戸惑っていると上から手が差し伸べられ引っ張り上げてもらう始末でした。でも船底からの響きがお尻に伝わりとてもいい経験でした。

この度は計画をはじめ運転手さんにご苦労をかけましたかけ、感謝です。でも計画にあった120ccのバイクに二人乗り、さながらローマの休日のごとくグレゴリーバックは役不足としても私がオードリー・ヘップバーンになれなかったのが唯一の心残りです。

山仕事 (4月「お茶摘みパーティ」)

あたたかい4月でしたね。各地でサクラの早咲き記録が続出。第4週は夏日はかりお30℃超えの真夏日も。週間予報で21日に降っていた雨マークも消え、正士さんも安堵したことだろう。

4月20日(木)晴。春霞なのか黄砂のせいかわ、視界が悪く、富士山も見えない。今日は、東京駅で「金華さばの椿寿司」(1550円)を購入。40年前、皆生(のい)カトリアスロンに参加したとき、伯備線の車中で食べた「吾左門寿司」とくらべてみたかったのだ。(どっちもおいしかった)

天浜線の車中で康江、山崎さんと合流。原田さんは所用で一日遅れの参加。敷地駅で正士、久米、若林さんに迎えられる。二組に分かれる。康江、久米さんの二人が買物組。正士、山ちゃん、若林さんにミッチャン(正士さんの従弟通正さん)とぼくの男5人が草刈り組だ。道路沿い、西隣りの井さんちのまわり、パーティ会場となるヒメジャラの林、当日、ワラビ狩りの場となる東垂れ一帯も。

買物から戻った久米さんは、いつたん森町の家に戻る。この日は町会の集まりがあり、現在組長を務める久米さんを欠く訳にはいかないのだ。後刻、再び正士さんちへ。康江、久米さんが調べてくれた夕食は、

刺身(カツホ、アジ)、カキのキャベツづくめレモン味、春コンジンのラバ、スタップエンドウ塩茹で、枝豆、シラスと大根おろし、豆もやし、竹の子とワラビとこんにゃくの煮物、ミョウガ竹と多彩だ。ハルシーだが、ちょっと物足りない。おまけに、正士さんが疲れ気味でおそばもしく、内田美智子さんから頂いた「みすず館」(長野・上田市飯島高店のフルーツゼリー)がおそば代わり。不蒸類のぼくをみて、久米さんがソーメンを茹でてくれた。まるで餓鬼で、すみません。

この夜、ぼくは母家で寝るに。蚊がうるさくて、よく眠れなかった。

4月21日(金)晴。いつも6:30に起きて朝食を用意してくれる原田さんが、今朝は居ない。そこで山ちゃんに、ふだんは朝寝坊の康江さんも加わり、朝食の支度。ぼくもみそ汁を担当した。

ほとんど、久米さんの車で竹中さんも参加。家道をぐるりと囲むように流れる敷地川に下りてゆくスロープの草刈り。対岸に渡るよう渡し板を使って仮の架橋。対岸に渡って竹の子の生育状況を見る。伸びが早く、数も9本ほど確認できた。(●印が渡り点) につけにくい竹の子には、目印の笹を立てておく。

また、東側の川原に下りる細い道も整備する。



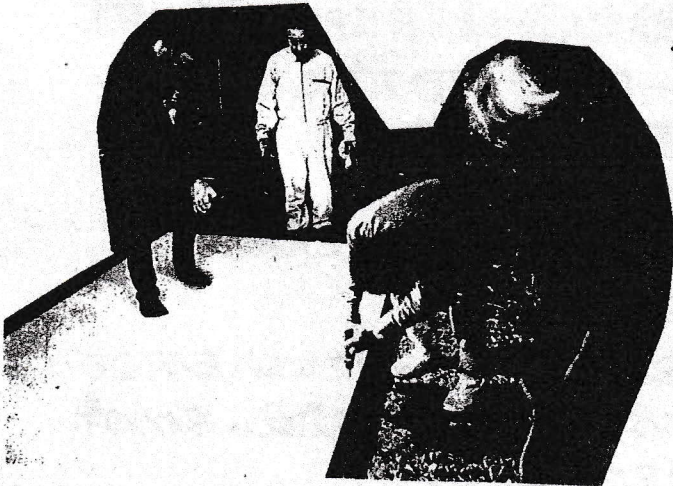
そのうち、野口弓江さん(旧姓の「千葉」ちゃんと呼び慣れている)、原田さんは鹿
ばくは女性3人と員物組(荷物運び)にまわる。

一斉、会場の整備も進む。山ちゃんと英ちゃんは、尾上美智子さんから寄託され
たバーベキューセットで、大きな豚の
ブロック肉を焼く準備。厨房では
杉浦シェフを迎えて調理の準備に
忙しい。



(昼) 冷やし中華、竹の子のバ
タ、しょうゆ炒め、ワラビのお浸
し。

庭では、竹中さん、ミッチちゃんを中心
となって、夜にかけてコンサートの会場
の舞台造り。地面に角材を並べ、



コンパネ(汎用性の高いコンクリートやネ
用合板)をビスで固定する。その上、不
時の雨に備えてブルーシートで屋根がかけられ
た。

夜は、13名の賑やかな交流会となっ
た。康江さんとスミさんが中心となって
調べてくれた夕食は、

トマトのホーローソースかけ、豚のしょう
が焼き、カブとバーコン炒め、シラス

干しと大根おろし、豆もやし、マグラのムニエル、エシャレットと金山蒔き、くさや
と金目鯛の干物(式根島みやげ)。加えて杉浦シェフによる刺し身(マグラの
中落ち、と)のレバと心臓)にタイの湯むきも。正士さんは、参加者名簿の整理
などで2時間ほどしか眠れない夜が続き、この日もおそはなし。正士さん、少し
助けの人も頼むなりしよいと、身体を壊すよ。

明日のコンサートの主役 鈴木義郎さんは、
正士さんのお隣りの御曹子。一時、正士さん
と同じく豊岡村役場に勤務しながら、高校
時代から始めたパーカッションに傾倒。役場を
退職して演奏活動を続け、ジャズ・フュージョン
からラテン系へと音楽の幅を広げる。

91年、オケスタ・デ・ラルスに加入。世界23
カ国以上でのライブツアー出演。カロス・サンタナ



ミッチちゃん

義郎さん

青山さん

杉浦シェフ

など多くのトッププレイヤーと共演。アメリカのグラミー賞ノミネート、国連平和賞、日本レコード大賞特別賞を受賞。国の内外で精力的に活動中。(下の写真中央)

パートナーのNORAさんは、オケスタ・デ・ラ・ルスのメインヴォーカル兼作詩作曲家。1990年デビューアルバムが全米ラテンチャートで11週連続1位を記録するなど世界的に認められ、アメリカグラミー賞ノミネート。日本レコード大賞特別賞、文化庁芸術選奨文部大臣新人賞ほか数々の賞を受賞。



93年、紅白出場、96年ソロ活動スタート、13年ラテングラミー「ベストサルサアルバム」受賞。16年コロンビアで「インターナショナルサルサ賞」を受賞。

ソロとしても各地イベント出演。学校公演などを通じて「日本ラテン化計画」を推進。18年、初の著書「人生、60歳まではリハーサル」を主婦の友社から発売。

共演のあびる竜太さん(写真左)は、東京音楽大学付属高校ピアノ科を首席で卒業後、アメリカのバークリー音楽大学に入学。キューバでラテンピアノを学ぶ。国内外のアーティストとの共演歴も豊富。アルバムがジャズディスク大賞にノミネート。

今日は電子ピアノを演奏。

この夜、康江、千葉ちゃん、久米さん宅で、英ちゃん、ぼくは母屋で寝る。

4月22日(土)。週間天気予報が猫の目のように変わり一喜一憂させられたが、この日は好転する筈だった。しかし、一夜明けると今にも降り出しそうな気配。まわりの東海や甲信越は晴れているのに、なぜか静岡だけが曇天だ。

パーティ当日とあって、いつもより早く始動。それぞれの持ち場につ。ぼくは、例によって水島加寿代、神原幸雄さんと受付の担当だ。今回、正士さんがとりまとめた参加者名簿は、115名の多さを算えた。この中には、午後の演奏会のみを対象に招待したご近所の20名ほどが含まれる。



ソバ打ちに備える野中佳美さん

カメラはどれも正士さん



竹の子炭火焼きの深谷孝さん

夕時前から次々と集まってくる。少し離れて設定した駐車場の担当は若林さんだ。受付
けでは、会費を受けとり、後日土産として送るお茶(ヤブタ、左来、サヤマカオリ)の希望と
チェックする。いつもながら水島さんの手際のおよさに助けられる。今回も水島さんは
多忙で、来客が一段落すると帰って行った。調理場では、杉浦昌樹さんをチーフに
原江、スズキさん、千葉ちゃん達が忙しく立ち働いている。

山中圭子さん(雑報 掲示板の文字デザインを担当)が、今年も友人二人と見えた。山中さん
は、ザシニアジャパンほかいくつかの集いを持っているが、今年はさらに新たな計画を進め
ているそうだ。近く、その内容を寄稿するそうだ。

尾上美智子さんが遅い。伊藤英雄さんと、どうしたんだらうと話し、英ちゃんが電話
をしようとしたところに到着。以前は軽トラックでパーキングセットを運ぶため早く出たが、今
年は正士さんの倉庫に置いてあるので、ゆっくりしたとのこと。

菅原敏一さんも見えた。車の使用は今回をやめるといふ。新たに年輩者の経験と若
人の活力を結びつける集いを計画中。初回は故郷の秋田で開催予定とのこと。

佐藤貞敏も参加。少しやせたがお元気。この分なら三浦ハイクも大丈夫かな。

鈴木佳子さん、武ちゃんを亡くして力を落としていたが、山ちゃんに猫の手の協
力を得たいという。家業の「茶碗や」笠井屋を続けながら、店を改造して人が集ま
る場を造りたいという。いいですね、お手伝いしましょう。

前田聡さんが知美さん、二人のお子と京都から。この夜は産で天幕泊。

溝口久さんの巨軀は、どこに居ても目立つね。

野中佳美さんと松本芳廣さん、二人のソバ打ち名人が動き出す。
その間、山菜採りに出かけた人が次々と獲物を拵って戻ってくる。



お餅の行列に並ぶ人たちに、「元気早山」の皆さんが
お茶の購入を呼びかける。それが一段落するのを待って、
青山忠義さんが干しシタケを売り始める。ばくも呼びかけ
に一役買った。あれで半分くらいは売れたらうか。

お餅に続いておそばの行列ができる。時々ポツポツ
と雨が当たるが、ぬれるほどではない。



座敷では、明治大学を退任した川嶋雅章さんが天ぷらを揚げ始める。又米さん、千葉さんが手伝っている。



深谷さんの焼き竹の子は、熨火で皮ごと焼いてから皮をむき、熱々をしょう油をかけて食す。山ちゃん三宅伊都子さんの豚ブロック丸焼きも人気だ。焼けた部分をナイフで削いで供するが、ぼくは最後にバラさんと二人分数片だけ。



そして、メインの料理が登場する。今回は、軒下に並べた大皿から、各自に好きなものを選び分けるビュッフェ方式だ。そのメニューは、キノコ汁、アサリの酒蒸し、季節の煮物、山菜の天ぷら、黒炒り茶、セリのお浸し、ワラビの玉子どじ、ねばねば(納豆、長芋、メカブ、オクラの和之物)にフルーツヨーグルトのデザート。

ひと休みの後、コンサートの開始。それまで待っていたように空が晴れてきた。

義郎さんのパーカッションにちびる竜太さんの電子ピアノ、そしてNORAさんの歌。皆さん思いおもいに座って聴き入る。



曲目は「オーバザレインボー」「私にはピア」(高田みお之/サザンオールスターズ)「I need be in love (カーペンターズ)」

「シルエットロマンス(大橋純子)」「Xロデー(玉置浩二)」「Cielo(NORAのオリジナル)」「精熱の花(バートベン曲、ザ・ピーナツ歌)」と、なじみの曲が多く、さいごにNORAさんオリジナルの「ハイパー」。これがダンスを混じえた熱唱で盛り上がった。



アンコール曲(あれ、なんだったっけ)の後、全員で集合写真。

宴が終り、皆さんが三々五々帰途に就く中、後片付けが始まる。千葉さんは今回も使い残した紙コップなどの数を算之、段ボール箱の外側にその数を記し、しまってくれる。こうすると、次回助かるのだ。

一段落したところで川島さん、天幕泊の前田さん一家、栗林グループの加わり、総勢18名の二次会。身のやせる思いで準備してきた正士さんも、さぞ嬉しかったろう。焼きとり、キノコ汁にタイの湯むきなども出て、しめは老本さんが打っておいてくれたおそばを、久米さんのだしとろえしで頂く。

この夜も康江さんと千葉ちゃん、久米さん宅へ。英ちゃんとぼくは母屋で寝袋。

4月23日(日)、くもりの中晴。朝5:30、新聞を読んでいると、杉浦シェフが起きてきて、一人、竹の子採りに出かけte行った。



8:30、前田さん一家をまじえ台所で昼食。
9:44、敷地駅で正士、久米、若林さんに見送られる。この日乗った車輻は、初めての金席前向きシート。どの線が使われていたのだろうか。

掛川で英ちゃんと、小田原で康江さんと、品川で山ちゃんと別れ、13:30ほど到着。泊まっている郵便物などの整理ができて嬉しい。

- ① 5月11~13日
- ① 6月14~16日
- ② 7月12~14日
- ③ 8月23~25日
- ④ 9月6~8日
- ⑤ 10月27~29日?

◆山仕事を楽しむ会◆

静岡・磐田市鈴木正士さん宅。
交通費各自、会費3000円
(10月は、変更可能性有り)



ねこのて

安東明子さん